

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：22702
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2010～2011
 課題番号：22700544
 研究課題名（和文） 患者中心の作業療法を実践するための作業療法意思決定支援パソコンソフトの開発研究
 課題名（英文） Development of Aid for decision-making in Occupation Choice for client-centered occupational therapy practice
 研究代表者
 友利 幸之介（TOMORI KOUNOSUKE）
 神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・講師
 研究者番号：90381681

研究成果の概要（和文）：

我々は、作業療法の目標設定における意思決定を支援するための iPad アプリである作業選択意思決定支援ソフト（ADOC）を開発し、作業療法を実施中のクライアント 100 名を対象に、その信頼性と妥当性について検証した。結果、対象者からは「今回決めた作業療法の目標は自分自身の希望を反映したものである」、「今回決めた作業療法の目標は自分自身納得のいくものである」などの項目で高い値を示した。満足度評価においても、検査者間信頼性、Satisfaction Index K との併存的妥当性が確認された。従って、ADOC の意思決定部分は対象者にとって良い意思決定するといった妥当性を有しており、選出した作業の「満足度評価」に関しても信頼性と妥当性があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

Introduction: The iPad application, Aid for Decision-making in Occupation Choice (ADOC), was developed to promote shared decision-making during occupation-based goal setting. It involves choosing from 95 illustrations describing daily activities related to the item “activities and participation” in the International Classification of Functioning, Disability, and Health. Aim: The purpose of the study was to develop and evaluate ADOC. Method: A total of 100 occupational therapy clients evaluated ADOC for goal setting; the clients along with 37 occupational therapists underwent a survey to determine their perceptions of decision-making during goal setting. Result: More than 90% clients and occupational therapists felt that they could give their opinions on goal setting using ADOC, which would also be useful for goal setting by the occupational therapists in their clinical practice. Conclusion: The results of this survey indicated that ADOC is a useful and acceptable tool for both clients and occupational therapists in shared decision-making during occupation-based goal setting.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
23 年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：作業療法学

科研費の分科・細目：人間医工学・リハビリテーション科学・福祉工学

キーワード：ADOC, 作業療法, 意思決定, 目標設定, リハビリテーション,

1. 研究開始当初の背景

作業療法評価では、どの作業を目標とするのか、対象者と作業療法士が対話を通して選択する。しかし、人の生活には無数の作業が存在していることや、自分にとって重要な作業を普段から意識していないことなどから、作業療法評価場面において、作業療法士から「どの作業ができるようになりたいか？」と聞かれても即答できる対象者は少ない。さらに、現在臨床において、この対話に明確な手順は示されておらず、作業療法士個々の経験や価値観によって左右されることが多い。よって、この対話による作業の選択は決して容易ではなく、この目標設定をシステムティックに行うための評価法の開発は、作業療法にとって急務の課題の一つである。

そこで我々は、作業療法の目標設定に関する意思決定に対象者の参加を促し、対象者と作業療法士が協業的に対話を進めていくためのソフト（アプリケーション）を開発中である。具体的には、作業場面が描かれたイラストをポータブルデバイス（iPad; Apple）上で映し出し、対象者と作業療法士と一緒に分類していくことで、対象者の目標とする作業を選択するための面接評価法（Aid for Decision-making in Occupation Choice; 以下、ADOC）である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、作業療法を受けている対象者に対して、ADOCの信頼性と妥当性を検証することである。

3. 研究の方法

プロトコル

全施設の対象者の中から、作業療法初期評価時の方や、作業療法を実施しているが方針を再検討する必要がある方のうち、症状が安定しており、認知障害がなく、研究参加の協力が得られた方を対象とする。またこの評価を実施する理由については十分に説明を行うとする。プロトコルの概要としては、研究対象者へ、ADOCによる面接を行い、その面接の印象を尋ねるアンケートと、生活に満足度に関するアンケートを行う。その後、症状に変化が見られなかった方のみ、信頼性の検証のために満足度を再評価する。

信頼性：再検査信頼性および検者間信頼性の検討

信頼性は「満足度を5段階で評定する」という行程のみ行う。再検査信頼性では、100名中50名の研究対象者において、同一研究対象者に同一検査者が2回満足度の評価を行い、2回の評価結果の相関関係を検討する。

有意な相関が認められれば、信頼性が保たれていると判断できる。1回目と2回目の評価の間隔は1週間とする。検者間信頼性は、100名中50名の研究対象者において、同一研究対象者に2名の検査者がそれぞれ1週間間隔で満足度評価を行い、2回の評価結果の相関関係を検討する。有意な相関が認められれば、信頼性が保たれていると判断する。

妥当性：妥当性の検討

ADOCの妥当性は、ADOCの目的でもある「対象者の目標設定の意思決定に参加しているかどうか」、「対象者と作業療法士との対話を促進したかどうか」について、検証する。ADOCの妥当性を検証するために、O'connorらのTraditional Decision Conflict Scaleと、Wressleらの報告にある調査項目を参考に、独自の目標設定確認シートを作成した。このシートをADOCの使用前後で対象者に記入してもらい、その結果をADOCの使用前後で比較することで妥当性を検証する予定である。仮に、目標設定確認シートのスコアがADOC使用後に有意に上昇すれば、妥当性は保たれていると判断する。

基準関連妥当性の検証では、満足度の結果において、本評価とすでに標準化されている評価を同時に実施し、両者の相関を検討する。外的基準には、生活満足度尺度である、Life Satisfaction Index K (LSIK)を適用する。LSIKをADOCの満足度評価の1週後に聴取し、両者を比較することにより基準関連妥当性を検証する。LSIKとADOCの満足度に相関関係が認められれば、両者は類似した概念であると判断され、つまりADOCの満足度は妥当性があると判断する。

4. 研究成果

アンケートの結果は、「今回の話し合いで自分の希望や意見をしっかりと言う事ができた」、「今回の話し合いで担当者から目標設定に関して十分な説明をうけた」、「今回の話し合いで自分の作業療法の目標を整理することができた」、「現在自分の作業療法の目標が何であるか明確に分かる」、「今回決めた作業療法の目標は自分自身の希望を反映したものである」、「今回決めた作業療法の目標は自分自身納得のいくものである」の全項目で高い値を示した。満足度の検者内信頼性は、優先順位1~5番目に選択された作業の満足度とも有意な相関が認められた。また満足度の併存的妥当性では、選択された作業全体の満足度の平均と、LSIKの因子の一つである「生活全体の満足度」の合計点とに有意な相関が認められた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- ① 市丸麻衣, 友利幸之介 他, 在宅要介護者における社会参加の尺度作成へ向けた予備的検討—作業療法士に対する調査—, 日本作業療法研究学会雑誌. 13: 23-28, 2010.
- ② 瀬下義正, 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) の満足度測定における妥当性の検証, 日本作業療法研究学会雑誌. 14: 29-31, 2011.
- ③ Tomori K et al. Utilization of the iPad application: Aid for Decision-making in Occupation Choice. Occu Ther Int. 2011. Epub ahead of print
- ④ 笹田絵莉, 友利幸之介 他, 作業遂行に対する満足度を包括的にスクリーニングするための評価法開発. 日本作業療法研究学会雑誌. 14: 17-22. 2012.
- ⑤ 齋藤佑樹, 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) を用いた失語症のあるクライアントとの意味のある作業の共有. 作業療法 31: 22-31, 2012.
- ⑥ 長山洋史, 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (Aid for Decision-making in Occupation Choice: ADOC) の内容妥当性の検討, 神奈川作業療法研究 2: 13-17, 2012.
- ⑦ Tomori K, et al. Reliability and validity of individualized satisfaction score in Aid for Decision-making in Occupation Choice (ADOC). Disabil Rehabil. Epub ahead of print. 2012.

[学会発表] (計 1 件)

- ① 友利幸之介 他, クライアント中心の作業療法実践に向けた作業選択のための意思決定支援ソフト (ADOC) の開発. 第 44 回日本作業療法学会. 2010.
- ② 上江洲聖, 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) の開発とその使用経験. 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会. 2010.
- ③ 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) の信頼性と妥当性, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ④ 上江洲聖 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) の表面妥当性の検証, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ⑤ 金城正太, 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) の臨床有用性の検討, 第 45 回日本作業療法学会.

2011.

- ⑥ 村上典子, 友利幸之介 他, 急性期作業療法における意味のある作業の実践
- ⑦ -作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) の試用経験から-, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ⑧ 田中裕子, 友利幸之介 他, 離床が目標だった重度用介護者が意味のある作業を語るまでのプロセス-ADOC の使用経験から-, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ⑨ 長山洋史, 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) の内容妥当性の検討. 一般社団法人神奈川県作業療法士会平成 22 年度研究助成事業, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ⑩ 瀬下義正, 友利幸之介 他, 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) 満足度の妥当性の検証, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ⑪ 原田伸吾, 友利幸之介 他, 発症後 16 年の生活史に埋もれていた意味ある作業を発掘した事例-ADOC の試用経験から-, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ⑫ 齋藤佑樹, 友利幸之介 他, 内に秘めた輝きを再び -失語症事例との意味ある作業の共有, ADOC (作業選択意思決定支援ソフト) の紹介-, 第 45 回日本作業療法学会. 2011.
- ⑬ Nagayama H, Tomori K et al. Development and Content validity of the Aid for Decision-making in Occupation Choice (ADOC) -An iPad application to share decision-making for goal-setting-. Asia Pacific Occupational Therapy Congress. 2011.
- ⑭ Tomori K et al. Development of an iPad application for occupation-based goal setting: Aid for Decision-making in Occupation Choice. COTEC congress of occupational therapy, 2012.

[図書] (計 1 件)

- ① 友利幸之介, リハビリテーションにおける意思決定支援ソフトの活用, pp137-156, 中山和弘 他編, 患者中心の意思決定支援, 中央法規. 2012.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

- ① 作業選択意思決定支援ソフト (ADOC)
<https://sites.google.com/site/adocforot/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

友利 幸之介 (TOMORI KOUNOSUKE)

研究者番号：90381681

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・講師